

2020年7月海洋観測結果について

6月25日に栽培漁業センターの調査船「おしどり」により海洋観測を以下の表1、図1の調査点で行いました。調査結果については、当センターホームページ (<https://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=201810>) と沿海漁協にはファクシミリで通知します。

表1 観測地点

	調査点	海底水深	経度	緯度
赤碕ライン	ST-1	13m	133.40	35.3100
	ST-2	50m	133.40	35.3430
	ST-3	70m	133.40	35.3736
	ST-4	95m	133.40	35.4340
	ST-5	185m	133.40	35.4805
長尾鼻ライン	ST-6	185m	134.00	35.4300
	ST-7	95m	134.00	35.4000
	ST-8	70m	134.00	35.3700
	ST-9	50m	134.00	35.3400
	ST-10	13m	134.00	35.3200

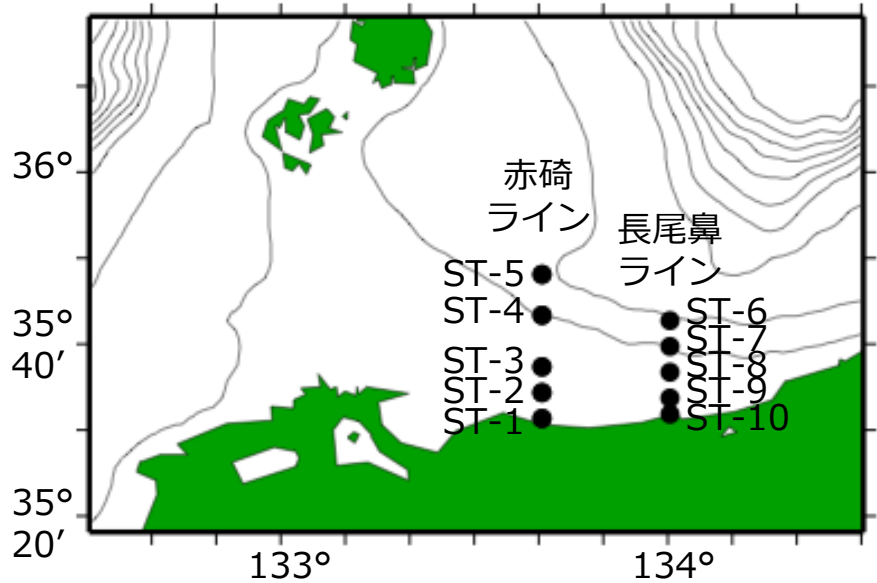


図1 観測地点

【鉛直分布図】

赤碕ラインでは水深127m帯まで緩やかな温度低下が見られ（23→15℃）、水深125mから水深184mにかけて15℃→6℃まで低下しました。なお、塩分躍層は水深35-40mで見られました。

長尾鼻ラインでは、水深157mから水深167mにかけて10℃→5℃と大きく温度が低下していました。なお、塩分躍層は水深31-38mで見られました。

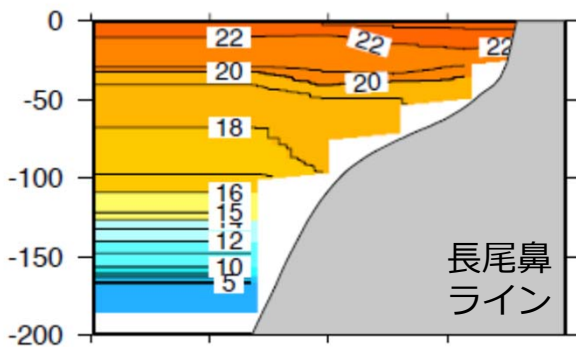
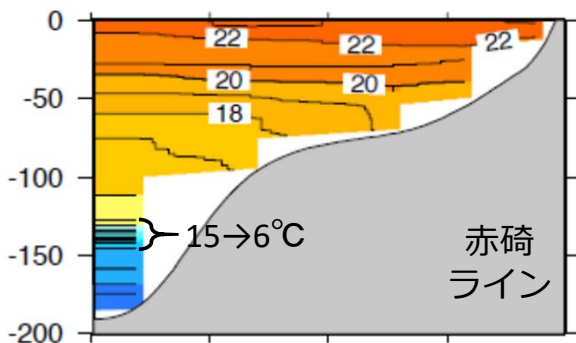


図2 鉛直分布図（海水温の単位：℃）

★操業に注意（特に東中部）★

ピークは過ぎたようですが、沿岸域ではアカクラゲ（玉ねぎみたくて触手が長い）が沖合域ではハナガサクラゲ（触手の先がピンク）が今年は多く発生したようです。白いか釣等で道糸にクラゲが絡みつく等の支障があり、刺されると痛みやかゆみを伴いますので御注意ください。

なお、発生のはピークは6,7月と言われており、高水温となる9月には終息する見込みです。

【7月観測の水深帯別の比較】

平年より、赤碕ラインでは水深50m帯まで1℃以上高く、長尾鼻ラインでは水深50m帯を除き1℃以上高い結果となりました（表2）。今年は、山陰若狭沖冷水塊が離岸傾向にあり、その影響が特に県中部で影響している模様です。

表2 各調査ラインの水深帯毎の平均水温

調査定線	赤碕ライン (133° 40')				長尾鼻ライン (134° 00')			
水深帯	0m	30m	50m	90m	0m	30m	50m	90m
2020年	23.0	20.9	19.3	16.9	23.1	21.0	18.7	17.8
前年	21.8	19.9	18.7	16.8	21.8	19.9	18.5	16.2
2010-19年平均	21.5	19.2	18.0	16.7	21.6	19.0	17.9	16.3
平年差	1.5	1.6	1.2	0.2	1.4	2.1	0.8	1.5

【2020年4月の主要魚種の漁獲動向】

鳥取県漁獲情報システムの4月速報値から、主要魚種の漁獲量比較を行いました。総漁獲量は、前年、5年平均（2015-19年）を下回りました（図3）。前年、5年平均を大きく下回った魚種は、サワラ、ブリ、アワビで、5年平均を大きく上回った魚種はアカモクでした。新型コロナウイルスの影響と時化が多かったことから出漁日数が

減少している可能性が
あります。

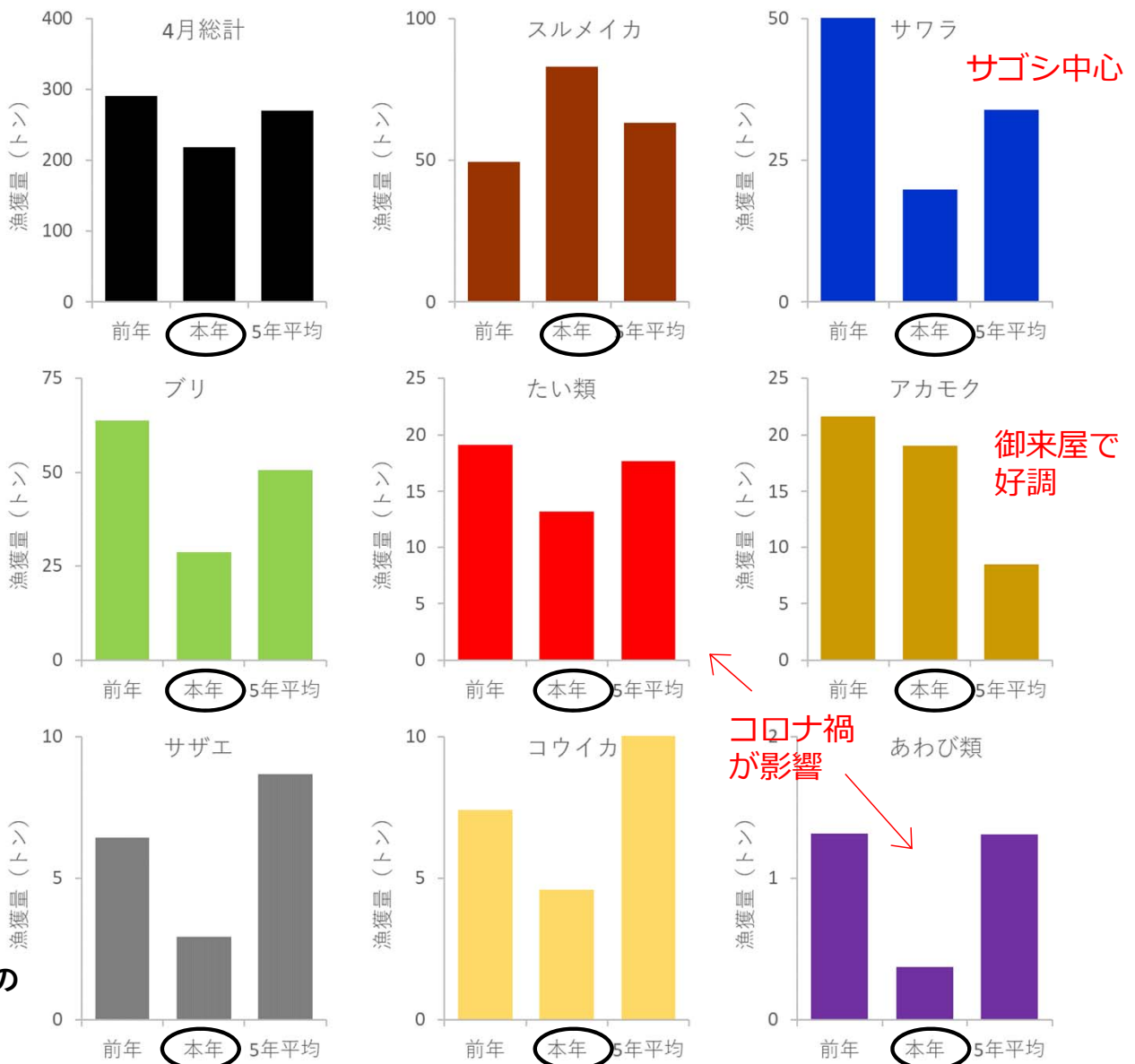


図3 4月沿岸漁業の
主要漁獲物の
漁獲状況

コロナ禍
が影響

御来屋で
好調

サゴシ中心